

令和2(2020)年度 病虫害発生予報 第4号

令和2(2020)年7月17日
栃木県農業環境指導センター

高温期の病虫害の発生に注意しましょう！

予想期間 7月下旬～8月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稻 いもち病

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は**やや多い**(平年比223%：ほ場率、平年比105%：株率)(+)
・向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並～多く、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ほ場の発生状況を良く観察し、発病が見られた場合、早急にブラシフロアブル等の予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・上位葉に葉いもちが多いと穂いもちの発生も多くなるため、出穂前に葉いもちの防除を徹底する。
・[植物防疫ニュース\(速報No.6\)](#)、[BLASTAM\(いもち病発生時期予測システム\)](#)の情報、[イネいもち病薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中

2 水稻 紋枯病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は**多い**(平年比277%：ほ場率、平年比267%：株率)(+)
・向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並～多く、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・発生が見られた場合には、穂ばらみ期から出穂期にまでにモンガリット粒剤、モンカットフロアブル等を散布する。発生が激しい場合は2回目を散布する。

3 水稻 斑点米カメムシ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・7月上旬の雑草地におけるすくい取り調査での発生量は平年並(平年比110%：成幼虫数)。(±)
・7月上旬の水田におけるすくい取り調査でのクモヘリカメムシの発生量は多い(平年比594%：ほ場率、平年比800%：頭数)(+)
・向こう1か月の気温は平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・穂ぞろい期に斑点米カメムシ類が水田内で見られる場合は、乳熟初期(出穂期7～10日後)までにMR.ジョーカーEW、スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10等を散布する。
・防除後も斑点米カメムシ類が見られる場合は、7～10日間隔で1～2回の追加散布を行う。
- (4) 備 考 ・[植物防疫ニュース\(速報No.5\)](#)を当センターHPに掲載中。

4 大豆 吸実性カメムシ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・7月第1半旬までのフェロモントラップへのホソヘリカメムシ誘殺数は平年並。(±)
・向こう1か月の気温は平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・開花期の15日後から子実肥大後期(9月下旬)までにトレボン乳剤、スミチオン乳剤等を10～14日間隔で散布する。カメムシ類の発生が多い場合は、散布間隔を短く回数を多くする。

5 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比93%：ほ場率、平年比108%：株率)。(±)
・向こう1か月の気温は平年並、日照時間は少ない見込み。(±～+)

- (3) 対策 ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な肥培管理やかん水を行う。
 ・予防を主体にベルコートフロアブル、アフェットフロアブル等を散布する。
- (4) 備考 ・高温期には菌の活動が抑えられ病徴が見えにくくなるが、菌は残存しているので注意する。

6 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない（平年比 25%：ほ場率、平年比 11%：株率）。（-）
 ・向こう1か月の平均気温は平年並の見込み。（±）
- (3) 対策 ・気門封鎖剤や天敵製剤を活用するとともに、化学農薬のローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。
 ・気門封鎖剤は、5日程度の間隔をおき複数回散布する。
- (4) 備考 ・[ハダニ類薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 りんご 褐斑病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は多い（100%：ほ場率、過去10年で発生が最も早い）（+）
 ・向こう1か月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない見込み。（+）
- (3) 対策 ・発生が確認されたらトップジンM水和剤、パレード15フロアブル等を散布する。
 ・定期的に予防散布を行い、耐性菌発生防止のため同一系統の薬剤を連用しないようローテーション散布する。
- (4) 備考 ・[植物防疫ニュース\(速報No.7\)](#)を当センターHPに掲載中。

8 大豆・野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 ・発生時期：**やや早い** ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・7月第1半旬のフェロモントラップへの成虫の誘殺数はやや多い、発生時期がやや早い。（+）
 ・向こう1か月の気温は平年並。（±）
- (3) 対策 ・施設開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
 ・早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 ・幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。

9 果樹類 カメムシ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・7月第1半旬のフェロモントラップへの誘殺数は多い。（+）
 ・向こう1か月の気温は平年並の見込み。（±）
- (3) 対策 ・ほ場をよく観察し、飛来が確認されたら防除する。飛来は長期間続くため、残効期間の長い合成ピレスロイド剤や、忌避効果が期待できるネオニコチノイド剤を効果的に使用して防除する。
 ・多目的防災網（4mm目合以下）をまだ張っていない園地では、速やかに被覆するとともに、園全体をすき間なく覆う。
- (4) 備考 ・山林に隣接するほ場や、過去に多発したほ場では特に注意する。
 ・蒸し暑い日没時に果樹園への飛来が多いので、注意する。
 ・[病害虫発生予察注意報第1号](#)を当センターHPに掲載中。

10 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
水稻	縞葉枯病	やや少	平年並	ねぎ	黒斑病・葉枯病	やや少	平年並
いちご	炭疽病	少	平年並		ハモグリバエ類	やや多	やや多
	アブラムシ類	やや多	やや多	なす	ハダニ類	平年並	平年並
トマト	うどんこ病	やや多	やや多	なし	黒星病	平年並	平年並
	コナジラミ類	平年並	やや多	きく	白さび病	やや多	やや多
きゅうり	べと病	やや多	やや多				

○うめ・もも・すもも・さくら クビアカツヤカミキリ（特定外来生物）

- ・成虫や、幼虫が出すフラス（木くず）を発見したら農業環境指導センターまで御連絡ください。
- ・[クビアカツヤカミキリ注意喚起チラシ](#)、[植物防疫ニュース（No. 1）](#)をHPに掲載中です。

○飼料用トウモロコシ等 ツマジロクサヨトウ

- ・早期発見が重要なので、疑わしい虫を見つけたら農業環境指導センターまで御連絡ください。
- ・[ツマジロクサヨトウに注意しましょう](#)をHPに掲載中。

○ほ場周辺の除草は害虫防除の基本です！

- ・水田畦畔の雑草や水田内のイネ科雑草、ホタルイ等は斑点米カメムシ類の誘引源となります。
- ・野菜類や花き類でも、ほ場内外の雑草はハダニ類、アザミウマ類やアブラムシ類の発生源となります。

6月1日から8月31日の3か月間は「**農薬危害防止運動実施期間**」です。農薬は適正に管理し、使用に当たっては、容器のラベルをよく読み、周辺環境に配慮し、正しく使いましょう。

1か月気象予報（予報期間7月18日から8月17日 7月16日気象庁発表）

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率50%です。週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	30%	40%	30%
降水量	20%	40%	40%
日照時間	50%	30%	20%

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。